

## あなたのそばで県議会（鹿児島地域）

開催日時 令和4年8月6日（土）午後1時30分～午後3時30分

開催場所 いちき串木野市・いちきアクアホール

参加者 一般県民55名 県議会40名

内容 ①議会活動の説明

②意見交換

・テーマ「あなたの考える鹿児島地域の振興策」

### ○意見交換会で出された質疑の項目

- 1 期日前投票と選挙公報の空白の期間解消について
- 2 若者の県外流出について
- 3 農林畜産業について
- 4 「循環型社会」に向けた取組について
- 5 海の環境改善のための取組について
- 6 第12回全国和牛能力共進会に向け、高校生への期待と協力体制について
- 7 こども家庭庁の設置への考えについて
- 8 「あなたのそばで県議会」の周知の在り方及び県道の維持管理について
- 9 就農促進に向けた農業教育について
- 10 職種増加に向けた取組について
- 11 外国人への日本語教育について
- 12 串木野高校の存続について
- 13 洋上風力発電について

○意見交換会で出された質疑の具体的な内容

## 1 期日前投票と選挙公報の空白の期間解消について

一般県民 A

期日前投票が公示のあった次の日から始まり投票日の前まで実施されているが、選挙公報が、県の選挙管理委員会から市の選挙管理委員会を通じて各家庭に届くまで何日かかかる。公報が届けば投票に行く人は判断材料ではあるが、公報がくる前に投票に行く人は判断材料がない。

期日前投票を、公示又は告示の次の日からにしないで1週間または10日ぐらい経ってから、公報が届く頃から始めたら判断材料があるかと思う。総務省に、鹿児島県にこういう意見があると陳情してほしい。

(おさだ康秀 議員)

選挙公報は、立候補者が提出した原稿を元に作成されるので、どうしてもタイムラグが生じる。選挙の投票率が50%以下しかない中、公職選挙法等、聞かせてもらったとおり国の方とも意見交換をしなければと思う。また、選挙の始まる前から、ホームページやYouTube等、選挙公報以外にも色々な方法で、それぞれの議員が情報発信をしていくことが、投票率の向上にも繋がると思う。貴重な御意見なので、しっかり受け止めさせていただきたいと思う。

## 2 若者の県外流出について

一般県民 B

若者の県外流出についての質問である。若者の県外流出に歯止めがかからない中で、県としてはどのような対策を考えているのか聞きたい。

(吉留厚宏 議員)

この質問は、長年の県政の最大の課題であり、我々がいつも悩んで、取り組んでいる課題である。本県は、若者が県外に流出して出て行く比率が、全国で一番高いランクにあり、今もほぼ半分ぐらいは県外に出て行くというのが実情。しかしながら、結論から申し上げると、まだまだだが、大分良くなってきている。今年3月の県内就職率は、高校生で60%ぐらい、大学は50%、短大卒は90%ぐらいが県内に就職している。ただ、18才で高校卒業して県外に就職していく人や、大学進学で地元を離れた人がそのまま県外に就職する方がやはりかなり多い。少子化の中、折角育て上げた子どもが半分は県外に出て行くということが、人口200万を誇った我が県が今160万を切るという実情になっていることかと思う。これに対してももちろん色々な手を打ってきており、就職口がないという御意見には、量としては、今ではほぼ100%、職種さえ選ばなければ地元就職できる。就職

したい人100人に対して何人、いくつ就職口があるかという有効求人倍率は、直近の6月末日で1.44、就職したい人100人に対して144の就職口があり、全国平均の1.27を上回っている。ただ職種的に希望の職があまりないということや大都会への憧れもあって県外に流出していくというのが実情である。まず量は何とか確保してあるので、これからは職種を、より若い方が就職したい職種を増やす努力をしていかなければと思っている。

かつて鹿児島県は、人材供出県と言って、中学校を卒業した子どもたちが金の卵と称されて大都市圏に集団就職して行った、県として集団就職列車を運行していたという非常に悲しい歴史がある。20年間で約18万人もの若い人達が鹿児島県を離れていったというのが現状であるので、これを先輩方の努力もあって、就職口、量は何とかなってきているので、繰り返しになるが、職種を何とかしていきたい。

後、高校生、中学生の皆さんに、地元へ愛着を持ってもらいたい。富山県は、大都会ではないが、地元への就職や大学を含め残る率が9割を超えている。色々な要因があるが、富山県では教育として、14才の挑戦というのを中学2年生全員に課して、1週間ぐらい就業体験によって地元の仕事を理解するということを30年来やっており、それが地元定着率に繋がっているのではないかとということで、そういったことも含め我が県でも考えていきたい。

### 3 農林畜産業について

#### 一般県民 C

県の主要特産物の一つである畜産物について質問をしたい。畜産物については現在、SDGsなどの観点から、飼料作物の栽培やメタンガスなどが問題視されはじめていることが気になっている。また、飼料作物などが現在の物価高から高騰していることを考えると、畜産業に従事している方の収益性が低下していくことが懸念される。これらのことに関して、県として、将来の畜産業の構想などを聞きたい。

(西高悟 議員)

私の住む、志布志市曾於郡区では養鰻が行われており、曾於郡区は、子牛の出荷頭数が県内一で、大隅半島は木材輸出が日本一など、農林水産業の地域である。今日は、産業経済委員会所属議員して答えていく。

飼料作物の高騰についてであるが、今ご存じのとおりウクライナの情勢や主産地の作柄悪化が懸念されている。それともう一つ、トウモロコシが非常に先行きが不透明だということで、中々飼料高という状況にある。去年の1～3月期と今年の1～3月期と比べれば、トン当たりの1万3千円値上がりしている。なので、1トン当たり8万4千円ぐらいになり、農家の経営を今圧迫している。そこで、国が進めているWCS用稲を増やして、牧草関係も増やしていかなければいけない。今まで輸入穀物に頼っていたということが非常にここで鮮明にされたということで、これからは日本の農業の自給率を上げるためにも、そ

ういった穀物まで含めた栽培を、県としても進めていかなければならないと言われている。

それと、メタンガスの問題であるが、一番言われているのは牛のゲップであり、牛のゲップに含まれるメタンガスの温室効果はCO<sub>2</sub>の約25倍。これについては、県が今年から国や畜産試験場等と一緒に、飼料の配合の在り方、飼料に入れる物によってゲップを抑えられるということで、オーストラリアでは海藻、藻を入れた物が1割、10%までメタン排出が削減されたという結果も出ている。韓国でも、これを先駆けて昨年から進めている。そういった形で、今世界が全体的に進めようとしている。また、家畜糞尿の処理過程で一酸化二窒素が出るが、これはCO<sub>2</sub>の300倍の温室効果である。これらのことを含めて、やはり鹿児島県は畜産の県なので、県としてしっかりと進めて行かなければならないという方向性である。ただ、国内の総温室効果ガス排出量と比べれば、この畜産の分野は全体の1%である。しかしこれは世界的にこれが温室効果ガスとして影響があると認められているので、農業立県と言われる鹿児島では、本格的に取り組まなければいけない。また、水稲によってメタンガスが田んぼから出る。これは農業分野でいうと42%。これが非常に問題視されており、このことについても専門用語になるが、中干しや水管理を行うということ、国としても課題としている。

最後に鹿児島県の畜産業は、これからどうあるべきかということであるが、酪農及び肉用牛に関しては、生産近代化計画というのがあり、令和2年見直しを行った。これは10年間の計画で動いており、中身には、簡単に言えば生産基盤強化や指導機関の強化などが出ているが、今、1番県として考えているのは、世界からは和牛が異常に人気が出ているとのことで、鹿児島県でも何とか増産体制を取っていかなければならないということである。

#### 4 「循環型社会」に向けた取組について

一般県民 D

将来、建築関係の職に就きたいと考えている。そのため、総合的な探究の授業の取り組みで、「自然にやさしい家づくりを推進するためには」という探求テーマで、循環型の推進という解決策にたどり着いた。近年、地球温暖化やゴミ問題などが目立ち、その状況は悪化していく傾向にある。そのため、鹿児島県として具体的にどのような取り組みをしていくのかを教えてください。

(白石誠 議員)

地球温暖化については、今、日本のみならず世界でCO<sub>2</sub>削減とかカーボンニュートラルとか言われているが、線状降水帯による豪雨災害や台風の巨大化、一方では日照りや猛暑日が続くような状況になっており、本当に喫緊の課題であろうと思っている。鹿児島県の現状は、ごみに関しては、本県、一般廃棄物の排出量が2011年から少しずつ減少しているが、リサイクル率が全国平均では約20%であるが、本県は16%と全国32位の状況にある。ただ、大崎町では、令和2年度で83.1%と高い水準で一般廃棄物のリサ

イクルを達成している。県としても、各地域の方々としっかりと話し合いながらリサイクル率の向上に向けた取り組みをお願いをしているところである。また、温暖化についても、昨年度の補正予算で、水素・再生可能エネルギーの導入への設備等の補助、また、省エネ設備等を導入する中小企業に対する補助等も実施している。

また、建築関係の仕事を志望しているということで、CO<sub>2</sub>削減に当たり森林、林業も必要であるが、県内の人工林の杉や檜はほとんど利用適齢期を迎えており、これらを伐採して利用していく、県産材の利用促進を図っているところである。この適齢期の森林が、もう50年経つとCO<sub>2</sub>の吸収率、効率が若干落ちるので、県に再造林に向けた任務を果たせるよう要望したところであり、従来の再造林への取り組みが3割だったが5割を超えているところである。建築関係に進むのが夢ということなので、しっかり学んで、県産材の普及まで努めて頂きながら一生懸命頑張っただけならばと思う。

## 5 海的环境改善のための取組について

一般県民 E

いちき串木野市は、「海の町」というイメージがあり、私たち串木野市民にとって海はとても身近な存在である。しかし、海岸や砂浜にはごみがあり、決して綺麗と言えない現状である。7月にはいちき串木野市全体の海岸清掃にも参加したが、このような海的环境をより良くするために行われている取り組みや対策を教えてください。

(白石誠 議員)

本県でも、海洋漂着物等ごみが非常に問題化されている。令和2年度に実施した調査によると、県内全域で約6,200トンの漂着物があり、回収した量は3,348トンということで、まだ半分ぐらいが漂着したままの状況になっている。

本県は南北約600kmにわたり、その海岸線延長は約2,666kmにまで及び。飛び石のように連なる島々は、黒潮の流れの中にあり、本県は日本本土における黒潮の最前部に当たる。海に囲まれた環境はそれ故に海との関わりが深く、世界自然遺産に登録された屋久島や奄美大島・徳之島などの豊かな自然や文化、観光産業など様々な分野において多く恩恵を得ている。

一方で近年本県においても、海岸において、国内や周辺の国々から生活ごみや台風等の災害ごみ、流木、座礁した鯨等の非生態系を含む海岸環境の悪化、美しい浜辺の消失、海岸機能の低下及び漁業への影響など被害が生じ住民の生活や経済活動にも影響が及んでいる。

国は海岸における良好な景観及び環境を保全するために、海岸漂着物等の円滑な処理及び、発生を抑制することを目的に、平成21年に、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」を制定している。そこを踏まえ、本県も海岸漂着物等による深刻な問題に対処するため平成24年3月に鹿児島県海岸漂着物対策推進地域計画を作成して、昨年度

までの10年間の計画を実施しているところである。

正に今プラスチック等のごみが問題になってきている。プラスチックが海に漂流してから30年ぐらい経つとマイクロプラスチックという5mm程度の小さいプラスチックになり、そのプラスチックを魚が食べてまたその魚を自分たちが食べるということで、環境や我々の身体へも影響が出るような状況であるので、やはり自らがしっかりと当事者意識を持って、ごみを出さない。ごみの回収、リサイクル、リユースを考え循環型社会を作り、次の世代に地球を繋げていくという意識を持ち取り組む必要がある。

## 6 第12回全国和牛能力共進会に向け、高校生への期待と協力体制について

一般県民 F

市来農芸高等学校畜産部では、鹿児島県の財産といえる「鹿児島黒牛」の学習の一環で肉用牛の管理をしており、模索しながら毎日、頑張っている。

今年は、第12回全国和牛能力共進会の年として県の畜産界を中心に盛り上がりを感じているが、この大会を通して、鹿児島県が私たち高校生にどのような期待をしているのか。また、私たちの日頃の成果が最大限、発揮できるような協力体制があればお聞かせください。

(瀬戸口三郎 議員)

和牛甲子園等の全国大会で立派な成績を収めている市来農芸高校畜産部の長年の活躍は、市来農芸高校の卒業生の一人として誇りに思っており、感激もひとしおでした。

第12回全国和牛能力共進会の本県の開催は、肉用牛の改良推進はもちろん、農家の生産意欲の向上、生産基盤の維持拡大と同時に、新たな担い手の確保に繋がると大きく期待している。

第12回全共では、出品区分として農業教育と学習活動を通じた和牛への理解醸成と担い手の育成を目的として、新たに「高校及び農業大学校の部」が新設されたところであり、現在、各農高、農大それぞれ県最終予選会に向けて頑張っていることと思っている。高校及び農業大学校の出品対策については、全国和牛登録協会や県経済連、県、各地区JAなどからなる県推進協議会が連携して、県内7高校と農業大学校の学生に対して飼養管理指導や調教技術研修などに取り組んでいる。また、農高、農大の生徒は、大会の成功に向けて、鹿児島大会に多くの方々に来場いただけるよう「和牛フェス盛り上げ隊」として県実行委員会と連携して大会PRを行っていただいているが、大会期間中の運営にも御協力をいただくこととしており期待している。

第12回全共を通じた取り組みの体験は、日頃の飼養管理技術の向上や、本県畜産の未来を託す担い手としての動機付けにつながる大きな期待がある。これらの取り組み体験を中学生への学校紹介時にアピールしていただきたいと願っている。

## 7 こども家庭庁の設置への考えについて

一般県民 G

看護師と、ケアマネージャーをしている。医療現場では、介護制度を利用されない独居老人の方が非常に多く、このような高齢者が入院すると、退院後の介護制度や独居が問題となり、結局施設入所となる。コロナ禍で子どもを抱えて働いている人たちも多く、保育園が休園になって子どもがあずけられず、介護の現場で続けられない方も多い。

私の子たちが、ボランティアの講師を主にした学習支援活動を無料で行っており、今後子ども食堂も含め、困っている子どもたちが駆け込める、子どもシェルターへ移行していきたいと考えている。また、高齢者にも、何か困ったことがあったらあそこに行けばいいと思って貰えるような場所にしたいと思っている。

若者や高齢者も含め、やはり自分の生まれ故郷は鹿児島で良かったと思って貰えるような、希望がもてる県政を作る県議会であって欲しい。今度、住居支援等、子ども家庭調査が開催されると思うが、そういう住居支援、子ども家庭庁のことにに関して御意見を伺いたい。

(ふくし山ノブスケ 議員)

今、社会の色々な制度は、自ら申請をしないと手立てが何も無いという感じで、役所に申請してはじめてその人がそういう状況になっているということが分かって、では、こういう制度があるというアウトリーチという思考にある。しかしながら、滋賀県では、今年度の予算編成をするに当たって、1つの柱にしたのが、待つのではなく、自らそういうところにアプローチしていくという考え。どういうことかといえば、言わば探していく、そうやって支援をしないと、今は声を上げられない人がたくさんいるということが、滋賀県知事の考え方である、表現としてはアウトリーチという表現。これは様々な方法があるが、これからは、行政もそうになっていかなければならないと思っている。

子ども食堂、子どもシェルターの話もあったが、私も、虐待の問題などを議会で議論した。虐待が起きた時の対処をどうするかが問題になるが、もっとそういう事態に至る前に少し救えるものがあれば、何らかの形で、それが正にシェルター的な、色々な年齢に限らず集まれる場所、逃げる場所、こういった場所を地域の中にどう作っていくのかということ。虐待まででなくても、例えばお母さんが疲れて、ちょっとイライラしている時に、例えば隣の方や友達が、ちょっとお昼作りすぎたから食べてよと言って持って訪ねてくれば、その瞬間にその方は救われる。虐待に至ることがなくなる。なので、どうやってそういう地域のコミュニティーを作っていくのか。色々な方法があると思うが、随所に、色々なところにそういう場所を作ることが大事ではないかなと思っている。

もう一つ、今、ヤングケアラーの問題がある。私もずっとこのことを議論しているが、ヤングケアラーも自ら私はヤングケアラーだと認識している子どもは少ない。しかし最近、言葉をよく聞くようになり、ニュースを見たりして、もしかして自分もそうなのかなという気持ちがしてくる。そうなんだけれど、家族のことなのでやるのは当然だと思ったり、

人に知られたくない、知られることが家族につらい、など色んなことがあり、1人1人の状況は違う。だから1人1人の支援のあり方も自ずと変わってくる。これからはそんな風に、自立の考え方だけではなく、色んな場所、色んな形を作っていくことが求められているんだろうと思っているので、しっかりと議論したい。

## 8 「あなたのそばで県議会」の周知の在り方及び県道の維持管理について

一般県民 H

「あなたのそばで県議会」には、大隅であった時に参加して、素晴らしい会議だなと感じて、今日は大隅半島の志布志から来たが、会場を見て出席率、出席、参加者の少なさに驚いた。地元としてどういう宣伝をしたのか。また、いい機会なので、高校生を全員参加させる仕組みは出来なかったのか。それが今後の投票率にも繋がるきっかけになると思う。地方から色々な問題を県議をお願いをして行政が動くという仕組みにもなっているので、周知徹底が重要に思う。

それと県道の管理について、あらゆる地区を見ても非常に道路が荒れている。植栽のところは雑草が茂っており、山間部では、大きい木が垂れ下がり大型自動車が困っているような状況を見る。県道の維持、管理については、もっと道路維持管理に予算を付けて維持管理をして欲しい。

(吉留厚宏 議員)

呼びかけが足りないということで、反省している。ただ、いちき串木野市では、市の広報に載せていただいたり、各戸に設置されている防災行政無線で、一昨日の夜と昨日の朝、周知いただいた。

私も、コロナ禍でもあるので、各団体には、あくまでも関心のある方は来ていただければとお願いをしたところなので、御理解いただきたい。

(伊藤浩樹 議員)

県道についての質問だが、国道は3号線だけ国土交通省が管理している。3桁の国道は県管理となっている。県道と3桁国道は県管理でやっているが、植栽管理に草が伸びているところもあるため、議会でも再三、道路管理の予算要求をしている。

北薩地域では、メンテナンスフリーの植栽帯を進めている。出水市は植木の街なので、植木、緑化推進もあるが、交差点部分など見えにくいところは、メンテナンスフリーなどに取り組んでいる。

県全体としても同じような方向性で今後進んでいくと思っている。中々予算が少ない鹿児島県なので、国からの補助を活用するなど、国道、県道の管理をして行きたい。



## 9 就農促進に向けた農業教育について

一般県民 Ⅰ

年々、遊休農地や高齢化などで農地が荒れていく状況を把握している。新規就農資金や親元就農等、色々な補助金はあるが、新規就農資金をもらっても、5年間経ったらこれではやっていけないと出て行く人たちも多い。親元就農は土地や機械があったりするため、補助金から外れているが、一番就農する確率はある。

後継者が少ない中でも、市来農芸高校から女の子が2人、アルバイトに来てくれている。このように頑張って農業をしたい子たちを育てたい。自給率を上げるためにも、学校教育の中で、農業の大切さを学ぶ時間が出来ればと思っている。

(前野義春 議員)

今、日本中で、鹿児島県でも一番深刻な問題となっている。新規就農する人たちには5年間の経営開始型の交付金等、色々なものが国を通じて準備されているが、今は、非常に認定が難しくなっている。親元就農の場合、単に親の農業を引き継ぐのではなく、自分のやりたい農業をレポートで提出しないと認められない。しかし、親元就農に力を入れれば、就農者が増えるのではないかという御意見で、私もまったくそうだと思う。決して新規を切り捨てるのではなく、幅広く交付、支援をすべきだということ。今、産業経済委員会という農業政策を預かっている委員会にいますので、いただいた御意見は、色々な場で反映させていきたい。

それから、耕作放棄地の問題であるが、県の農政部から、耕作放棄地が増えたという報告はあるが、耕作放棄地を畑や田んぼに返したという報告はほとんどなく、県内でも増えている。数年前の統計で、日本国内の耕作放棄地が兵庫県の面積に匹敵すると言われていたが、恐らくもうそれより増えている。なので、今の国や県の農業政策では、耕作放棄地をいかに減らすかという政策を前面に打ち出す必要がある。

ロシアのウクライナ侵攻で、多くを外国に依存する、牛、畜産の飼料が高騰してきている。耕作放棄地に飼料作物を植えて国産飼料を奨励するという方策もやったりして、畜産試験場で飼料作物の優良品種の選定試験を行っているという答弁もあったが、畜産県鹿児島はやっぱり立派だと言われるよう、引き続き県議会等様々な場で、意見反映をしていきたい。

たとえ親元であろうと新規であろうと、農業をやりたい方々を大事にして、側面的な支援をして行く。今日は市来農芸の生徒さんもきているが、農業に興味を持って農業系の高校に進んで、牛と向き合い、豚と向き合い、鶏と向き合い、あるいは作物と向き合うという教育を毎日、実践しておられるので、皆さんが、卒業したら安心して就農出来る環境を作っていく必要があると思っている。今日は多くの県会議員が御意見を聞くいい機会が出来たと思うので、色々な場で、県民の皆さんの思いや意見を反映をしていくよう、引き続き頑張っていく。

## 10 職種増加に向けた取組について

一般県民 J

若者の県外流出について、どのような職種を増やすべきか、そしてどのような方法で増やそうと考えているのかお聞かせいただきたい。

(吉留厚宏 議員)

例えば、看護師や保育士が鹿児島県でも、全国的にも不足しているが、保育士を目指す人に、資格取得のための学校等の資金や卒業後の就職準備金を貸し出して、県内で5年間以上、保育士の資格を生かした職場で働けば、返済は不要という制度がある。この他、看護師や医師（地域枠）の制度もある。資格を取得し就職をすることで地元に残れるような制度を1つ1つ実施している。産業構造の関係で、例えば東京圏であるような職種が全て鹿児島で揃えられるかということそれは中々現状難しい。ただ、ITの発達で、オンラインで出来る職種も出て来ているので、今後、若い人のニーズに合うような職種を、1つ1つ作り上げていくしかないと思っている。

(柴立鉄平 議員)

私、春休みや夏休みなど、大学生や若い人たちの意見をたくさん聞いていると、若い人たちはよく鹿児島には何も無いと言う。何がなく何が欲しいのか聞くと、USJやディズニーランド、コストコなどが欲しいと言う。しかし、私は、鹿児島に何も無いと思っているその考えを変えられないかと言っている。例えば我々は、お金を払って東京に行き遊んだりするが、逆に東京の人たちはうらやましく思っているところもある。東京の親戚の子たちを照島海岸などに連れて行くと、ものすごく喜ぶ。こういうところ東京にはない！と。まずそういう考えを鹿児島の人たちにも持ってもらいたい。

どのような職種をどのような方法で増やすかということについてである。まず、先程紹介があったが、ITがコロナ禍でもものすごく進んだ。テレワークなどがものすごく進んだ。だからこそ、私は、鹿児島で起業できる若い人たちが増えてほしいと思っている。若い人たちが起業することによって、鹿児島ではどうせお金も稼げない、東京と違い情報も遅いという人もいるが、鹿児島でも出来ることがある。今、県庁の18階では、若い人たちでも起業できるスタートアップ支援ということもやっている。例えば面白い話が、大学生の方が、海の家ではなく、海に遊園地を作りたいと考えていると言う。海水浴に行った時に、でっかい滑り台などを空気で作ったりして、東京都か福岡とか人を呼び込めないかと考えている。ただそこには、知恵も知識も経験もなくお金もない。だからそこを先輩たちに教わりながらやっていこうという流れを作ろうとしている。まずは鹿児島でも出来るという考えを持ってもらうことが、我々の仕事だと思っているので、まずは若い方々の意識改革を一緒に出来たらと思っている。

## 11 外国人への日本語教育について

一般県民 K

2019年に県が実施した鹿児島人材活用実態調査によると、一定レベルの日本語能力の習熟を課題とする団体が過半数との結果があるが、県内の日本語教育機関やそれに類似する施設、日本語講座の開催はどれくらいあるのか、また施設はどのように行い、認知度がどのくらいあるか、利用率もあわせて教えてほしい。あと、異文化を理解する方法として、双方の言語を知ることことが国際交流に必要なと思うが、外国語が学べる施設がいくつあるか教えてほしい。

(柴立鉄平 議員)

外国人の方が学べる施設がどのくらいあるのかということだが、他にもあるかも知れないが、鹿児島市には九州日本語学校やKBCCという専門学校がある。これは、語学留学生を外国でリクルートして、日本で学びませんか、第一歩として日本語を学びましょうと、だから外国人がこっちに来て日本語を学ぶというよりは、日本語を学ぶためにこっちに来るとい施設。

そういう施設を知ったのは、以前、飲食業に従事していた時に、ネパール人の方などと一緒に働いていた。そこで働いていた方で日本語学校に通っていた方々が、九州日本語学校やKBCCであったと記憶している。外国語を覚えるには、1番は外国人の方と一緒に暮らすことだと考える。私は、一緒に暮らしてはいないが一緒に働いていたので、おかげでネパール語が話せるようになった。やはり相互理解のために、どうしても相手のことを知って、その上で教育をする必要があったため、文化や食生活なども勉強した。例えばネパールであれば、カースト制度がある。同じ階級の人としか働くことが出来なかったりするため、日本で働くが、カースト制度は大丈夫かなどと質問しながら言葉を覚えた。それが1番であった。今、本当に外国人の方が増えている。技能実習生が県内各地にいるが、我々も同じ仲間として働いてきた経験から、そういう人たちが寂しい思いをしったりしないように、今コロナで外国人の方も大変であるから、そういった方と親身になって話せる関係が、言葉が必要だと思う。

(森昭男 議員)

日本語を学びたいという外国人の方は多い。県のホームページでは、「日本語教室リスト」というのが紹介されており、例えば、志布志や曾於、鹿屋、長島、そして鹿児島市内など、チャリティーカフェであったり色々な場所で、外国人の方が無料で学べる箇所がある。また、今後、各県に「夜間中学」というものを作っていきたいということで、我々も札幌の夜間中学を見てきた。そこでは外国人の方やご高齢の方など、学ぶ機会を逸した方が、もう一度しっかり学びたいという時に、外国人の方は、日本語が分からないと学べないということで、基礎的なクラスもあったりするが、そういった場所が鹿児島県にも必要ではないかと検討しており、そういった学べる環境を、今後しっかりと作っていきたいと議論している。

(伊藤浩樹 議員)

語学を学ぶという観点ではないが、鹿児島市の加治屋町に、鹿児島県と鹿児島市が共同運営する、「鹿児島国際交流センター」が2年程前にオープンしている。ここは外国人の方が居住するスペース等々もあるが、1階部分には、外国人の方、日本の学生の方が自由に交流する場があったり、外国人の先生のイベントなどがあり、自由に参加できる仕組み作りがある。交流の場所であるので、是非一度訪ねてみたらどうか。

## 12 串木野高校の存続について

一般県民 L

私は県立串木野高校の存続について心配している。

昔は受験に学区の制限があったが、今はどこでも受験できるため学生がいなくなった。学区を制限すれば市内の中学生がみんな残ると思う。いちき串木野市では受験や国家試験の受験料の半額を市で援助している。そういうことをしないと定員割れを起こす。私は近い将来、統廃合になるのではないかと危惧している。学区の制限等の方法をとらないと何年経っても生徒数は増えない。

県は、簡単に統廃合せず、何とか存続できるよう願います。

(吉留厚宏 議員)

私も串木野高校出身であり、先輩の御心配はごもっともかなと思う。今から19年ほど前の平成15年に、高校再編が焦点になり、その時の整備統合基準で、宮之城の1つと薩摩郡の2つの高校が1つになるとか、種子島の2つの高校が1つになるとか、県内の公立高校がかなり統合された。しかしその時のハレーションというか、色んな問題があり、当時の伊藤知事が、方針を変えて、当時の整備統合基準では、定数の2/3以下が2年間すると、廃校基準に達するというのがあったが、それは事実上今はない。各地域で高校をどうするかそれぞれ考えるということになり、今、具体的に例えば串木野高校がなくなるとかどこの高校がどこと一緒にするという具体策は議論の対象になく、廃校の話もない。

また、学区、学生の問題は、規制を強めるというのは中々厳しいものがあり、全国的に規制を緩める方向にあって、全県一区という全県で学生をとっている県もかなりある。規制を強めよというのは、現状では正直厳しいので、色んな課題があるかと思うが、まずはOBとして現役の串木野高校に頑張ってもらい、結果を出してもらいたい。そうすれば自ずとその後がついてくる。子どもの数が今極端に少ない状況にあって、私立の高校も頑張っているの、それぞれが頑張っていていただくしかない。

## 13 洋上風力発電について

一般県民 M

洋上風力発電の件について、国策であるが、いちき串木野市と県の考えを聞きたい。

(宝来良治 議員)

洋上風力発電自体国策であるが、やはり建設される地域の意見が一番重要だと考えている。漁業者を含め利害関係者、全てが納得した上で次のステップに行くという段取りをしているが、情報が非常に錯綜しており、地域住民の方、漁業関係者、建設関係者の方、それぞれがそれぞれの目線で語っており、中々交わり合うことがないところである。

いちき串木野市では、市議会を中心に研究会等が発足して少し進みつつあるが、全体的な構図としては、設置される市町村の中で、利害関係者全員が納得して次の段階に行くことになっている。

そのため県は、公正公平な情報提供という立場で各利害関係者に説明を行う、としている。今年度からまた1歩進んだ状況にはなると思うが、最終的には地域の方々の御理解の下進む政策だと考えている。今年度はより一層具体的な県の活動もあると思う。